

男女共同参画推進講演会

自分らしく働く、自分らしく生きる ～「男だから」にとらわれない、新しい選択のヒント～

「男だから」「女だから」といつの間にか決めつけていませんか。
仕事も人生も、自分らしく楽しむことが、毎日を豊かにする第一歩です。
家事や育児、仕事の体験を交えながら、固定観念にとらわれず、一人ひとりが自分らしく
前向きに生きるヒントをお届けします。



日 時

9月18日(金)

18:00～19:30(17:30開場)

場 所

農村環境改善センター2階研修室

定 員

30名(申込優先・当日参加可)

申込方法

二次元コードから申込。
電話またはFAX、メール
で名前、お住まい、電話
番号、年代などをお知
らせください。



申込フォーム

講 師

東 浩司 (あづまこうじ) 氏

そ の 他

託児あり(要申込)
Web配信あり

株式会社ソーラー代表 NPO法人ファザーリング・ジャパン会員
神奈川県逗子市在住 1971年生まれ55歳
大阪大学人間科学部卒業 立教大学大学院修了

6回の転職を経て長女の誕生を機に研修講師で独立。
父親の育児支援を行うNPO法人ファザーリング・ジャパンの理事を10年務め、
2009年に日本初の本格的父親学校「ファザーリング・スクール」を立ち上げた。
編書に『新しいパパの教科書』『新しいパパの働き方』(学研教育出版)など。



9月は 「中井町男女共同参画月間」です



中井町では、講演会の開催や啓発活動などを通じて、町民や事業者の関心や理解を深め、男女共同参画の推進をするため、9月を「男女共同参画月間」としています。

今年の講演会は、NPO法人ファザーリング・ジャパン会員の東浩司さんを講師にお迎えします。東さんは2007(平成19)年長女の出産を機に、働き方を見直そうと、独立しました。「イクメン」という言葉が広まり始めていた頃です。現在、国では「育児」が、夫婦や家族だけでなく、職場、地域、行政、サービス、社会全体を巻き込んだ、本当の意味での「共育ともぞだて」に変わっていけば、みんなにとって働きやすく・暮らしやすくなるはずと、「共育(トモイク)プロジェクト」を進めています。

育休って、
実際どれぐらい
取っているんだろう？

育児休業取得率の推移

育児休業は働く女性の多くが取得していますが、30年前は半数に満たない取得率でした。平成19年に8割を超えてからはずっと8割台を維持しています。

男性の育児休業取得率は、低迷してきましたが、令和になってから伸び、令和7年には50.9%と半数を超えました。

	平成8	平成16	平成19	平成26	令和元	令和4	令和5	令和6	令和7
女性	49.1%	70.6%	89.7%	86.6%	83.0%	80.2%	84.1%	86.6%	88.3%
男性	0.12%	0.56%	1.56%	2.3%	7.48%	17.13%	30.1%	40.5%	50.9%

出典：厚生労働省「令和7年度雇用均等基本調査」結果の概要(事業所調査)

男性育児休業取得者の声

Goriさん33歳 R5年に8か月取得

長男もあり、双子だったのでドタバタしながらあっという間の8か月でした。
育休を取得したことで夜も落ち着いて対応でき、子どもとも充実した時間を過ごせました。日々成長する子どもと一緒に過ごせたのは貴重な経験で一生の思い出です。

(実は・・・一人目は実家も近いし何とかなるだろうと楽観視して休まなかったけど大変でした。)



Rさん35歳 R5年に5か月取得

第一子ということもあり、ミルクのあげ方や寝かしつけなど、初めてのことばかりでした。育休を取得したことで、夫婦でゆっくり話し合い、試行錯誤しながら一緒に育児に向き合えました。家族との大切な時間を過ごせたことも、かけがえのない思い出となりました。

Tさん35歳 R4年に1か月取得

業務の都合で、生後4か月目に取得しました。初めての子育てで試行錯誤の日々でしたが、育休中はより育児に専念できました。子の成長を間近で夫婦で一緒に感じる事ができました。家族との大切な時間を密に過ごせたことは一生の思い出になりました。もうすぐ2人目が産まれます。今度は産後すぐ4か月取る予定です。

男女共同参画川柳の募集

第6回

五・七・五に思いを込めて

誰もが性別に縛られず、一人ひとりの個性と能力が発揮できて、自分らしく生きていける男女共同参画社会について、川柳で思いを表現してみませんか。

家庭や学校、職場、地域など、日々の暮らしの中で、あなたが体験した、感じた、考えた男女共同参画に関する気づきや疑問など、五・七・五の川柳に詠んでお寄せください。



第5回大賞作品

奏でよう 多様な声で 輝くみらい

ジャックおじさん

応募資格

中井町在住、在勤の方、町内事業者、町内で活動している方

募集期間

9月1日(火)～11月30日(月)

応募規定

○他のコンテストに応募していない未発表作品
○おひとりにつき3点まで

注意事項

○応募作品は、男女共同参画の推進・啓発活動に活用させていただきます。
○応募作品の著作権は、中井町に帰属します。

賞

大賞(1点)地域通貨3,000きら 入賞(3点)地域通貨1,000きら

応募方法

持参、郵送、ファックス、メールまたは二次元コードの応募フォームから
○名前 ○住所 ○年代 ○性別 ○電話番号 ○在住・在勤等の別
○ペンネーム(ご希望の方) ○川柳 ○川柳の解説

申込フォーム



問い合わせ

中井町地域防災課
〒259-0197 神奈川県足柄上郡中井町比奈窪56
TEL:0465-81-1110 FAX:0465-81-1443
E-Mail: chiiki@town.nakai.kanagawa.jp

名前			年代	性別	
住所		電話			
ペンネーム			町内在住・在勤・事業者・活動		
川柳					
川柳の解説					

委員Tの憂いごと

その先にある、わたしたちの生き方

ー男女が共に生き、共に子育てする社会のあり方とはー

私は昭和31年3月、「もはや戦後ではない」と言われた時代に生まれた。

当時は、男性が外で働き、女性が家庭を守るという役割分担が一般的だった。まだ封建的な思想も残り、高い能力を持ちながらも活躍の場を狭められていた女性たちの不満は小さくなかったに違いない。

そうした声や国際化の波に押され、社会改革が進んだ結果、現在は女性が社会で活躍するのは当たり前前の時代となった。企業の管理職登用や政界への進出など、歩みは遅いものの着実な進歩を遂げている。

一方で、現代の日本は深刻な少子化に直面している。合計特殊出生率は過去最低水準を更新し続け、このままでは数世紀先に国そのものが立ち行かなくなるという試算もある。そしてこうした少子化の背景には、未婚化や晩婚化だけでなく、教育費や住居費の高騰、核家族化、そして長期にわたる経済の低迷から「共働きをせざるを得ない」という厳しい現実があるだろう。

時代の要請に応じて環境が改善されてきたはずなのに、なぜこれほどまでに出生率が落ち込んでいるのか。私たちはどこかで、大切な「ボタンのかけ違い」をしてこなかっただろうか。

制度や機会の公平性を整えることに躍起になるあまり、女性の身体的特性への配慮や、出産・育児という命を繋ぐ営みの尊さに対する視点が、社会全体で不足していたのではないかと思えてならない。その歪みが、極端な少子化という形で現れているのではないだろうか。

人類のはるか長い歴史において、男女がそれぞれの特性を活かし、協力して命を育んできた営みには、悠久の昔から引き継がれてきた知恵と重みがある。現代の価値観を否定するわけではない。しかし今こそ、夫婦の絆や子育ての喜びを社会全体で支える、真に豊かで幸福な社会のあり方について、立ち止まって見つめ直すべき時ではないだろうか。



中井町男女共同参画推進懇話会委員

会 長 中西 和美 副会長 橋本 昭彦
委 員 東出 美穂 澤田 真弓
田村 春壽 豊留 美津子
任 期 2027年3月まで

懇話会委員募集

町と協働で事業を推進していく委員を募集します。

任期：2027年4月～2029年3月

報償：地域通貨きら

応募、ご質問は下記までお気軽に

「ひだまり」へのご意見ご感想をお寄せください

編集/中井町男女共同参画推進懇話会 発行/事務局 中井町地域防災課

〒259-0197 神奈川県足柄上郡中井町比奈窪56

TEL:0465-81-1110 FAX:0465-81-1443

E-Mail: chiiki@town.nakai.kanagawa.jp

メールはこちらから→

